



中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

平成26年10月1日発行 通算第68号

会長あいさつ

全日本音楽教育研究会中学校部会長
小松 康裕 (台東区立上野中学校長)



秋の深まりを感じる季節となりました。今年の夏を振り返ると、列島各地でこれまでの想定を超える記録的な豪雨に見舞われ甚大な被害がありました。広島市の土石流では多くの尊い命が失われました。心からお悔やみ申し上げます。

芸術の秋、全国の中学校音楽教育に携わる皆様には秋の学校音楽行事の準備にお忙しい時期かと存じます。また北海道から九州・沖縄まで、各地区音研の研究大会開催に向けて準備が着々と進められておられることでしょう。小中学校が連携して発表に向けた授業研究に取り組み、ひとつの大会主題に沿った複数の授業を公開し、研究協議会では参加者の日ごろの指導経験を互いに学びあう。「教師は授業で勝負する」当たり前の使命のための研鑽を積む研究大会が、校種を越えて毎年、県・地区・全国と広がりをもって着実に開催されて多くの参加者が集う教科は音楽だけだと思います。

特に先の学習指導要領改訂後、各地区研究大会では地域諸先輩方々の実践の上に、音楽科授業の質的向上、更には音楽科として学校教育で果たすべき役割にまでその焦点が絞られ、本来的な「教科実践研究」としての在り方が確立されてきていると感じます。この実績は必ずや次期学習指導要領改訂でも認められ、教科音楽科の学校教育に果たす存在意義が更に重要視されると信じます。

さて、今年の全国大会（小中学校部会大会）が東京で開催されます。既に第二次案内がお手元に届き、参加申し込みを済まされた方も多いと存じます。「つなげよう 深めよう 思いをこめて」の大会主題のもと11月6日(木)7日(金)の両日、東京都府中市の「府中の森芸術劇場」を同一会場にして、領域・分野別に小学校と中学校の授業を連続して公開する、という画期的な試みで開催されます。正に今回の指導要領改訂の趣旨を受けたコンセプトであります。当日参加も含めて多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。

6月の全国理事会では、今後の全国大会を安定的かつ計画的に開催していくための新たな開催地決定方法について提案させていただきました。小学校部会、全日音研本部、更には高等学校部会・大学部会とも緊密に連携しながら、全国の会員諸氏のご理解をいただいてこの課題に対応してまいりたいと考えております。今秋、全国の研究大会の成功と大きな成果が得られますことを願うとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

Contents

- P1 会長あいさつ 全日音研会長 小松 康裕
- P2 事務局長あいさつ 風見 章 / 全国理事会
- P3 研修会:実践研究発表 神奈川県相模原市立中央中学校 教諭 鴻田 知枝 先生
研修会:講演「音楽科授業における言語活動の役割」
大阪教育大学教授 田中 龍三 先生
- P4 東京大会《小・中学校部会大会》の概要
- P4 大会案内・Information

発行

全日本音楽教育研究会 中学校部会
東京都台東区上野桜木1-14-55
台東立上野中学校内
会長 小松 康裕

これからの音楽教育研究のために

事務局長 風見 章

(杉並区立中瀬中学校長)



今年度も前半が終わり、後半に入りました。全国的に「異常気象」という言葉が、当たり前聞こえてしまう昨今。その自然災害報道のたびに、被害に遭われた各支部の様子が気になります。

中学校部会事務局長として今任期2年目に入りました。全国各支部にご連絡をとらせて頂きながら、支部長先生を始めそれぞれ皆様お忙しい中、本研究会のためにご尽力を賜っている様子に心より感謝申し上げます。

さて、中学校部会の全国理事会が6月20日(金)に東京・江東区文化センターで開催されました。全国から8名の副会長先生を含め、24の支部長先生方のご出席を頂きました。

理事会は、九州地区佐賀県平川支部長、長崎県高島支部長による議事進行の下、平成25年度事業報告、会計決算報告。そして今年度の事業計画や予算案などの審議を行い、皆様の承認を得ることができました。

理事会の中では昨年度の全国大会開催地であった、兵庫県の木村浩章支部長からの御礼と、次年度全国大会開催地である静岡県伊藤静雄支部長よりご案内もなされました。

また、研修会では神奈川県・相模原市立中央中学校の鴻田知枝先生の実践授業発表と、大阪教育大学教授の田中龍三先生にご講演を頂きました。本当にありがとうございました。

今回の全国理事会では小松部会長より「平成32年度以降の全国大会開催地決定方法」についての提案がなされました。これは、今まで全国大会開催地を決めていく上で、その年度に開催される各地区・ブロック大会を全国大会として開催して頂けるよう、全日音研本部そして小学校・中学校各部会からお願いし、引き受けて下さった地区で開催するものでした。しかし、音楽科管理職の減少を始め、開催都市それぞれの事情もあり年々開催地候補が少なくなっている状況です。平成31年度は全日音研50周年という大きな節目の年。過去、多くの先輩・諸先生方のお力で継続してきた全日音研全国大会の灯を将来へつなげて行くのも、私たちの大きな役目であると確信しています。11月の全国大会・東京大会の成果をさらに発展させていくためにも全国各支部のご理解とご協力をお願いいたします。

◆ 全国理事会 ◆

日時：平成26年6月20日(金) 13:00～

会場：江東文化センター



理事会は、串田諭裕副会長の開会の言葉で始まった。始めに、小松康裕会長より、全日本音楽教育研究会中学校部会として、各都道府県支部や他校種部会との連携を図りつつ、中学校教育に於ける音楽科の果たす役割と意義について強く主張する意味も含めた全国大会を安定的、計画的かつ効率的に開催し、音楽科教育の向上発展を進めることが求められているという力強い挨拶があった。議事に入り、議長に選出された佐賀県の平川支部長と長崎県の高島支部長の進行により、平成25年度事業報告、会計報告、会計監査報告、平成26年度役員・理事の紹介、活動方針と事業計画、予算、表彰者等の審議が行われすべて承認された。その後、角康宏調査研究部長より昨年度の調査研究報告と今年度の調査研究の目的、内容、方法についての説明、寺尾会計部長より今年度の会費についての説明があった。

さらに、小松康裕会長より平成32年度以降の全国大会開催地の決定方法についての提案を受け、意見交換を行った。参加された支部長先生には、概ねご理解いただいたが、今後さらに議論を進めていく必要があると感じた。続いて各支部の情報交換が行われ、各支部の重点的な取り組みや研究、若手教員の育成、確かな学びと学力、創作活動の充実等が各支部長より熱く語られた。最後に、昨年度の全国大会開催地兵庫県の木村浩章支部長よりお礼の挨拶、菊本和仁支部長より平成26年度東京大会の紹介、伊藤静雄支部長より平成27年度静岡大会の紹介があり、木村一也副会長の閉会の言葉で終了した。

◆ 研修会 ◆

第1部 授業実践研究発表

「日本音楽に親しみをもつ授業実践」

～我が国の伝統的な歌唱の充実をめざして～

神奈川県相模原市立中央中学校 教諭 鴻田 知枝 先生



神奈川県相模原市立中央中学校音楽研究部会での取り組みから、研究・実践されている内容について報告があった。「我が国の伝統的な音楽文化に親しませる」をねらいとし、次の3点について指導方法の工夫を行い研究を進めた。

- 1 ゲストティーチャーを招いての授業展開
- 2 学習の過程において言語活動の充実を図る
- 3 「音楽表現の創意工夫」を記録に残す評価場面の設定

平成24年度に採択された教科書に「能」が取り上げられ、さらに小学校で狂言の鑑賞を経験している生徒も多数いることから、狂言と能の違い等、能楽全体を学習することで理解を深めさせられると考え、「能のよさを味わいながら鑑賞し、表現の工夫をしよう」という題材で授業実践を行った。

体験をより充実させるためにゲストティーチャーを招き、謡うだけではなくお囃子や仕舞にも挑戦させ、グループ発表に向けて自分の役割を選ばせることで意欲が高まり、伝統的な歌唱における声の特徴にも興味・関心をもって学習すること、さらに、自分たちが目指す作品の全体像、知識も必須であるため表現活動の前や経過途中に鑑賞を設け、鑑賞と表現を関連させて指導すること等、具体的な取り組みが紹介された。

◆ 研修会 ◆

第2部 講演

「音楽科授業における言語活動の役割」

大阪教育大学教授 田中 龍三 先生



田中先生から「音楽科授業における言語活動の役割」という主題に基づき、資料に沿って具体的な説明があった。

- 音楽科の目標構造を考える。
 - 表現及び鑑賞の幅広い活動を前提として
 - 「育てる」(音楽に対する豊かな感性・音楽を愛好する心情・音楽文化の理解・音楽活動の基礎的な能力)
 - 「養う」(豊かな情操)
 - 学力の3つの柱
 - 1 基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - 2 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
 - 3 思考・判断・表現の「質」を高める学習意欲(主体的に学習に取り組む態度)
 - 音楽科の学習において、「おもしろい・なぜだろう・なるほど」と興味をもったことに対して「おもしろい・なぜだろう・なるほど」のように、生徒が主体的に中身に向かっていくことが学習となる。
 - 生徒が考えたことを他者と共有しあえる場を設定することが、言語活動を活用する授業づくりにつながる。
 - 言語活動を活用する授業づくりに必要なこと
 - ・学習内容を絞って明確にする。(この授業は何を学習させる授業なのか)
 - ・授業を構造的に捉え学習の連続性を確認する。
 - ・設定した学習場面のねらいを明確にする。
 - ・学習場面で必要となる知識・技能を明確にする。
- <まとめ> 音楽科の授業の構成を組み立てる時に、生徒にどのような学力をつけるのかに基づいて具体的な指導内容を設定し、それを学習させる意味とねらいを明確にし、レディネスを考えていくことが大切である。

東京大会《小・中学校部会大会》の概要

◆小・中学校部会 研究主題 「つなげよう 深めよう 思いをこめて」

◆日程 平成26年11月6日(木)・7日(金)

◆会場 府中の森芸術劇場(東京都府中市浅間町1-2)

○第1日目 基調提案・公開授業等

A会場：どりーむホール <基調提案>	9:10~10:10
<小学校部会総会>	14:20~15:10
B会場：ウィーンホール <公開授業 歌唱>	10:20~12:10
<中学校部会総会>	14:20~15:10
C会場：ふるさとホール <公開授業 音楽づくり・創作>	10:20~12:10
D会場：平成の間 <公開授業・鑑賞>	10:20~12:10

会場	学校名	題材名	授業者	助言者
B	府中市立府中第二小学校 (第4学年 歌唱)	旋律の重なりを感じとろう	加嶋 千秋	東京音楽大学 准教授 工藤 豊太
B	品川区立鈴ヶ森中学校 (第2学年 歌唱)	声部の役割と全体の響きとのかかわりを 理解し、表現を工夫して歌おう	山田 泰子	
C	小平市立上宿小学校 (第6学年 音楽づくり)	いろいろな音階を使って音楽をつくろう ～音階から切り取った音でつくる～	半野田 恵	日本女子大学 教授 坪能 由紀子
C	足立区立西新井中学校 (第2学年 創作)	いろいろな音階を使って音楽をつくろう	今井 由喜	
D	港区立赤羽小学校 (第4学年 鑑賞)	いろいろな民謡を親しもう	井上 奈々	新潟大学 教授 伊野 義博
D	港区立六本木中学校 (第2学年 鑑賞)	世界の様々な音楽の特徴から音楽の多様 性を理解して鑑賞しよう	勝山 幸子	

《シンポジウム》 どりーむホール 15:20~16:30

テーマ「生涯にわたって音楽を愛好する児童・生徒の育成を目指して」

シンポジスト *日本女子大学教授 坪能 由紀子先生
*新潟大学教授 伊野 義博 先生
*東京音楽大学准教授 工藤 豊太 先生
*研究部から代表数名

○第2日目 全体研究会 A会場：どりーむホール 9:05~11:45

開会行事・研究演奏・全体講評・閉会行事(フィナーレ)

平成26年度研究大会案内

- 10月24日(金) 関東音楽教育研究会 茨城大会(取手市)
- 10月31日(金) 近畿音楽教育研究大会 奈良大会(奈良市)
- 11月6日(木)・7日(金) 全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(小・中学校部会大会)
- 11月13日(木)・14日(金) 九州音楽教育研究大会 別府大会(別府市)
- 11月14日(金) 北海道音楽教育研究大会 十勝大会(幕別町)
- 11月14日(金) 東北音楽教育研究大会
岩手県音楽教育研究大会 釜石・大槌大会(釜石市)
- 11月14日(金) 中国・四国音楽教育研究大会 愛媛大会(松山市)

Information

全日音研中学校部会ホームページも是非ご覧ください。 <http://zennichionken-jhs.jp/>